

浄土真宗東本願寺派野中山正山寺

ほつ寺通信

第3号

平成26年3月1日
<発行責任者> 藤野慶正
<副住職> (副住職)

副住職の仏々(ぶつぶつ)

皆さん、こんにちは。ほつ寺通信も第3号を無事に迎えました。世間では「三日坊主」というお坊さんには少々手厳しい響きの言葉がありますが、次号あたりが怪しい？(笑) それにしても、「ほつ寺通信」なんていつぶぞけた名前の寺報が勝手に送られてきて、さすがに優しい檀家さんでもそろそろご立腹?!.....

「仏の顔も三度まで※①」と言うじゃないですか。あつ、ここにも仏教由来のことわざが！ 私たちの日常には、本当に沢山の仏教由来の言葉が溢れています。無宗教だという方も、何気に使われているのではないのでしょうか？ただ、本来の意味からかけ離れた意味で使われることが多いのも仏教語の特徴だったりします。

是非皆さんには、本来の意味を知った上で、臨機応変に本来の意味とかけ離れた意味での仏教語を使い分けて欲しいものです。それでこそ、仏教徒の端くれ... 応病与薬※②の達人であつたお釈迦様に近づけると言うものです。

※① 仏の顔も三度まで	を三度ばかり阻止するもの、四度目は出兵を阻止しなかつたため、釈迦国が滅んでしまったといふ話から来ています。そして、恨みを晴らしたコーサラ国の王も、後に暴風雨に襲われ命を落とし、宮殿も落雷に遭い焼けてしまったそうです。注目すべきは、お釈迦様は四度目に怒つたのではなくて、この世の条理、諸行無常を感じられ、敢	えて何もしなかつたといふこと。色々と考えさせられるお話ですね。
本来「まで」は付かず、温厚な仏様のような人でも顔を三度も撫でれば腹を立てるといふ意味で使われます。「まで」が付くと四度目で腹を立てることになりますが、大した遣いではないですね。本来、釈迦国(お釈迦様の生地)を恨むコーサラ国(隣国)の王が、釈迦国を滅ぼそうと出兵した際、お釈迦様がその出兵	を三度ばかり阻止するもの、四度目は出兵を阻止しなかつたため、釈迦国が滅んでしまったといふ話から来ています。そして、恨みを晴らしたコーサラ国の王も、後に暴風雨に襲われ命を落とし、宮殿も落雷に遭い焼けてしまったそうです。注目すべきは、お釈迦様は四度目に怒つたのではなくて、この世の条理、諸行無常を感じられ、敢	えて何もしなかつたといふこと。色々と考えさせられるお話ですね。
※② 応病与薬	「病に応じて薬を与える」つまり、その人の状況に合わせて適切な処置をする。お釈迦様は、人から質問を受けたとき、その人に合わせて(質問の内容や相手の理解度などを考慮し)臨機応変に教えを説いたとされています。これを対機説法とも言います。	

春の彼岸

3月18日(彼岸入り)
3月21日(中日・春分の日)
3月24日(彼岸明け)

まもなく春の彼岸を迎えます。皆さんご存じの通り、春の彼岸は、春分の日をはさんだ7日間。正山寺では、この期間の内、特に混雑が予想される春分の日と土日に交通整理をお願いする予定ですが、参詣の際は、呉々も事故の無いように気を付けてお越し下さい。

お彼岸ってなあに？

お彼岸は、インドの古い言葉、サンスクリット語の「パニミター」が中国に伝わった時に漢訳されて「到彼岸」となり、日本に伝わった時に省略されて「彼岸」となりました。彼岸とは、迷いや苦しみのない淨らかな世界を言い、私たちの生きている煩惱に満ちあふれた迷いの世界を此岸と言います。そして、彼岸を「極楽浄土」と捉え、この此岸から彼岸(極楽浄土)に至るための仏道修行の期間がお彼岸の本来の意味になります。

では、どういった仏道修行なのかと言つて、「パニミター」を音訳すると「波羅蜜多」となります。仏教には極楽浄土へ渡るための六波羅蜜の教えがあります。

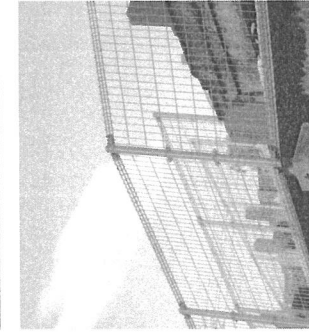
- 【布施】 施しをすること。
- 【持戒】 戒律を守ること。
- 【忍辱】 耐え忍ぶこと。
- 【精進】 努力すること。
- 【禅定】 心を集中し安定させる。
- 【智慧】 仏のはたらきを知る
こと。(裏面くつづく)

去る12月に、総代であられる細谷喜一郎氏が、84歳にてご逝去なされました。ご逝去を悼み、

総交代報告

この六つ教えは、普段から心掛けていくべき、特に難しい内容ではないことはお分かりになるかと思いますが、これすら満足に出来ないのが私たち人間です。せめてお彼岸の期間だけでも心掛けたいものですね。さて、今申したのが本来の意味。実際には、ご先祖様に想いを馳せお墓にお参りするの

が日本独自の仏教行事である「お彼岸」のイメージでしょうか。浄土の教えでは、極楽浄土は西の方向にあるとされています。太陽が真西に沈む春分の日、極楽浄土をイメージし、そこにおられるご先祖様を身近に感じ供養する習慣になったのでしよう。いずれにせよ、私たち日本人にとって「お彼岸」は特別な日です。義理でお参りするのではなく、それぞれの想いでご先祖様に会い、自分自身を見つめる良い縁となつて頂きたいと思つています。



※少々美観に影響しますが、ご了承頂ければ幸いです。また急な階段もありますので、お墓参りの際は、呉々も注意されてください。

境内整備の一環として、以前より懸案されていた墓地参道の危険な箇所、手すりと柵を設置させて頂きました。

境内整備報告

境内整備の一環として、以前より懸案されていた墓地参道の危険な箇所、手すりと柵を設置させて頂きました。よろしく願います。

謹んで哀悼の意を表します。これにともない、新総代として、細谷隣(さとの)氏が就任しましたので、ご報告させていただきます。現在、檀信徒の代表として、責任役員である細谷朝日氏のもと、以下5人の総代体制で、正山寺の護持運営にご尽力頂いております。(敬称略、就任順)

- 小山幸正、旗野行雄、細谷 清、
- 小山忠利、細谷 隣

境内でも場所によっては私の膝丈ほどの雪が積もりました。寺族だけではどうにもならず、近所の方にご協力を頂き、雪かきを行いました。雪景色は見た目にはいいものですが、交通面や怪我等、たくさん

さんの被害や危険を含みます。境内でも凍結してしまう場所がありますので、お参りの際は、十分にご注意下さい。

2月上旬に、首都でも45年ぶりと言われる大雪が降りました。境内でも場所によっては私の膝丈ほどの雪が積もりました。寺族だけではどうにもならず、近所の方にご協力を頂き、雪かきを行いました。雪景色は見た目にはいいものですが、交通面や怪我等、たくさん

副坊守のコラム

寺報「ほっ寺通信」第3号

浄土真宗東本願寺派 野中山 正山寺

住職：藤野有慶 (発行責任者)
 副住職：藤野慶正 (02011504)
 住所：〒194-0201 東京都上野区上野1-1-15
 電話：042-797-1446
 FAX：042-797-9233
 URL：<http://shousan.net>
 メール：info@shousan.net

今後とも「ほっ寺通信」を可愛がって頂ければ幸いです。 合掌

あとがき

「ほっ寺通信」第3号が仕上がりました。実は、夏の五蘭盆会のお知らせの時にも思つていました。間が空いてしまったので、この時期に発行させて頂きました。内容ももう少し充実させたい気もしていますが、余り背伸びをせず、暫くはこの程度でお許し下さい。たまに檀家さんから「あの、ほっし？通信読んだよ」と言われ、「ほつてらと読んで下さい」と言いつつ、何気に嬉しかったです。